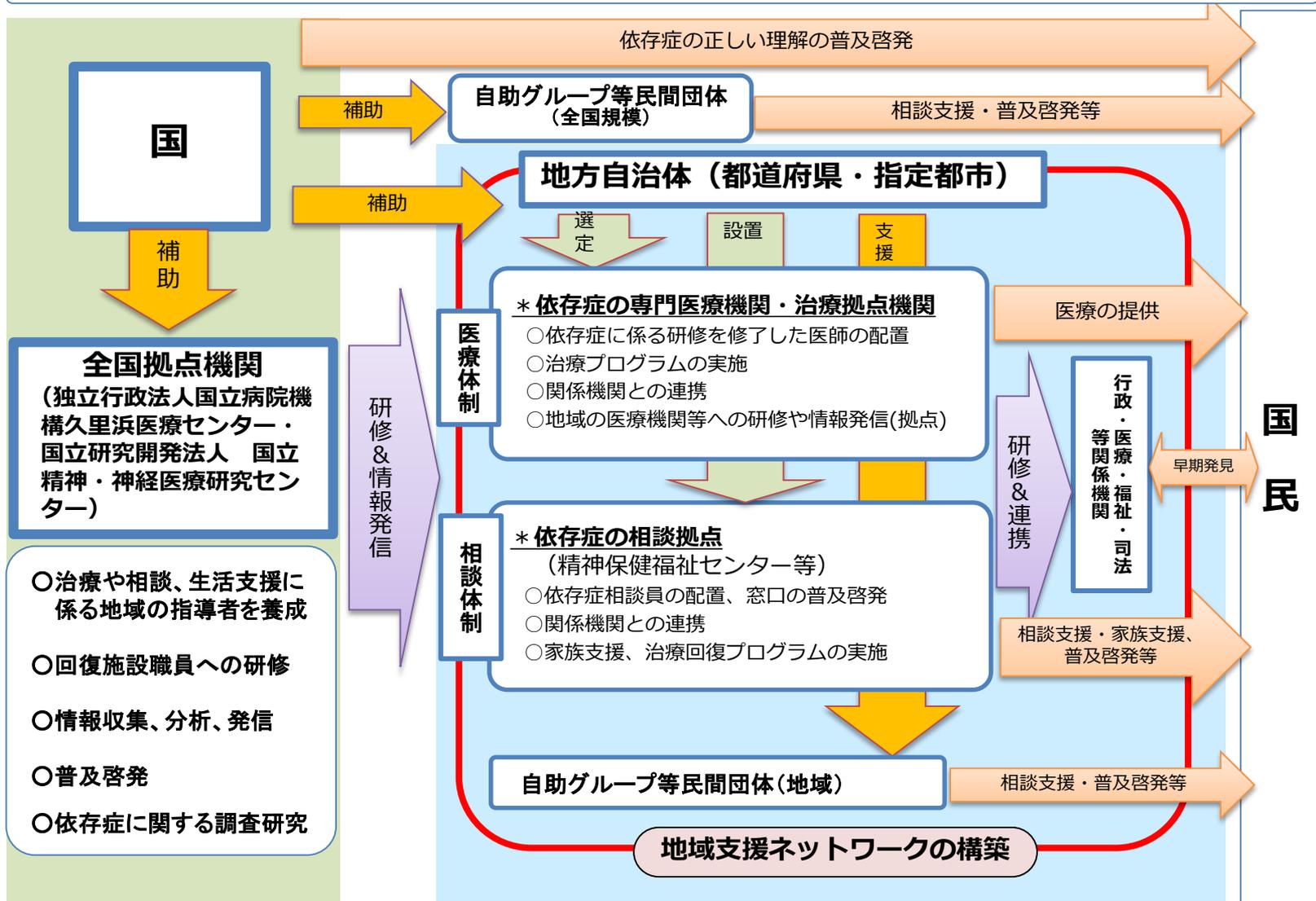


ギャンブル等依存症に係る行政施策について

厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部
精神・障害保健課 依存症対策推進室

依存症対策の全体像

○ 依存症対策（アルコール・薬物・ギャンブル等）については、各地域における支援ネットワーク構築、全国拠点機関による人材育成・情報発信や、依存症の正しい理解の普及啓発などを総合的に推進。



ギャンブル等依存症に係る相談拠点・専門医療機関

- ・相談拠点は66自治体、専門医療機関は53自治体（拠点医療機関41自治体）で設置（R4.3月末時点）
- ・令和4年度内に、相談拠点67自治体、専門医療機関57自治体（拠点45自治体）の予定

都道府県	相談拠点	医療機関	拠点
北海道	○保	○	○
青森県	○	○	
岩手県	○	R4	R4
宮城県	R4	○	○
秋田県	○保	○	
山形県	○	○	
福島県	○	○	
茨城県	○		
栃木県	○		
群馬県	○		
埼玉県	○	○	○
千葉県	○	○	○
東京都	○	R4	R4
神奈川県	○	○	○
新潟県	○	○	○
富山県	○	○	○
石川県	○	○	○
福井県	○		
山梨県	○	○	
長野県	○	○	○
岐阜県	○医	○	○
静岡県	○	○	○
愛知県	○	○	
三重県	○保	○	○
滋賀県	○	○	○

都道府県	相談拠点	医療機関	拠点
京都府	○	○	
大阪府	○保	○	○
兵庫県	○	○	○
奈良県	○		
和歌山県	○	○	○
鳥取県	○保医	○	○
島根県	○	○	○
岡山県	○	○	○
広島県	○	○	○
山口県	○	○	○
徳島県	○	○	○
香川県	○	○	○
愛媛県	○	○	○
高知県	○		
福岡県	○	○	○
佐賀県	○医	○	○
長崎県	○	○	○
熊本県	○	○	○
大分県	○	R4	R4
宮崎県	○	○	○
鹿児島県	○	○	○
沖縄県	○	○	
設置都道府県数	46	38	30
R4内	+1	+3	+3

政令市	相談拠点	医療機関	拠点
札幌市	○	○	○
仙台市	○	○	○
さいたま市	○	○	○
千葉市	○		
横浜市	○	○	○
川崎市	○		
相模原市	○	○	○
新潟市	○	○	
静岡市	○	R4	R4
浜松市	○		
名古屋市	○	○	○
京都市	○	○	
大阪市	○	○	○
堺市	○	○	○
神戸市	○	○	○
岡山市	○	○	○
広島市	○	○	○
北九州市	○	○	
福岡市	○	○	
熊本市	○		
設置政令市数	20	15	11
R4内	±0	+1	+1
	相談拠点	医療機関	拠点
合計	66	53	41
(R4内)	(67)	(57)	(45)

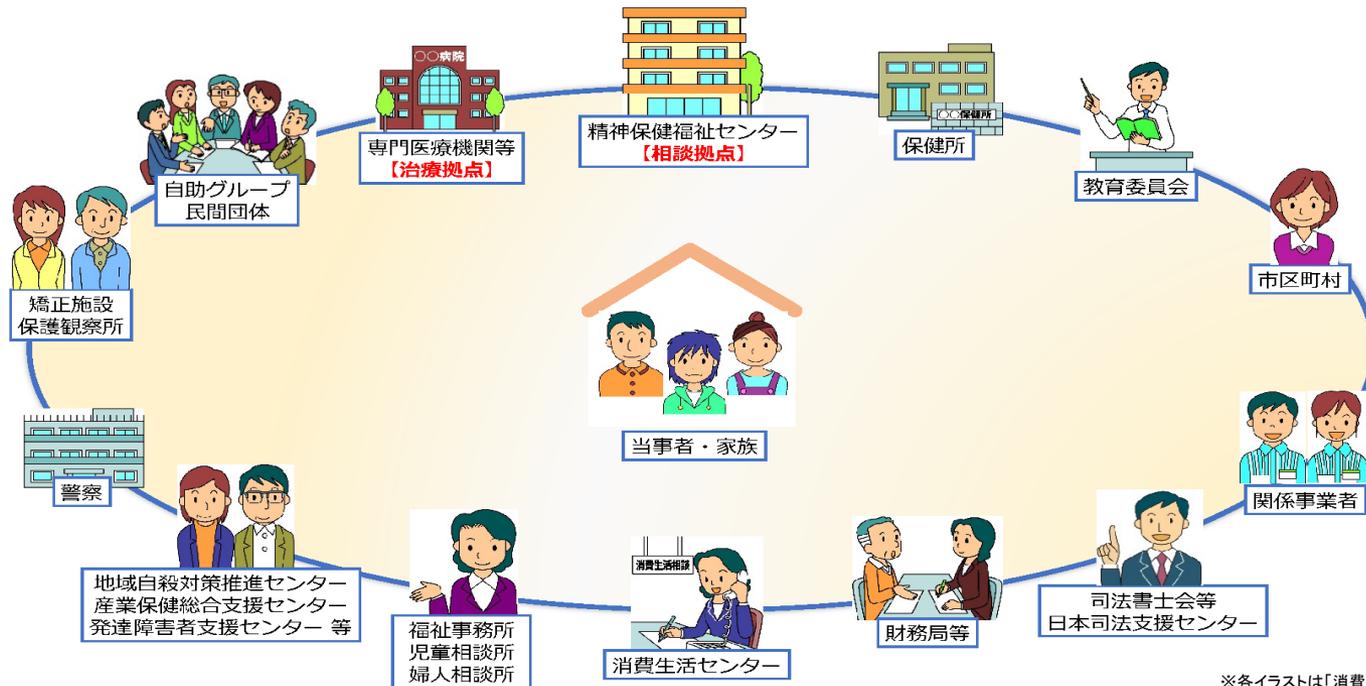
※相談拠点の○は精神保健福祉センター、保は保健所、医は医療機関
 ※R4は令和4年度内予定

各地域の包括的な連携協力体制の構築

ギャンブル等依存症である者等やその家族等が早期に必要な治療や支援を受けられるよう、関係事業者、消費生活センター、日本司法支援センター等の各種相談窓口において早期に発見し、精神保健福祉センター・保健所等の相談機関、専門医療機関等へと早期につなぐ体制を構築

【取組状況】（令和3年度末時点）

○ 連携会議設置済：39自治体



※各イラストは「消費者庁イラスト集」より

依存症対策の推進にかかる 令和4年度予算案

<令和3年度予算>

9.4億円

<令和4年度予算案>

→ 9.5億円

①地域における依存症の支援体制の整備

6.0億円 → 6.0億円

都道府県・指定都市等において、人材育成や医療体制及び相談体制の整備を推進するとともに、地域の関係機関が参画する包括的な連携協力体制の構築、専門医療機関や治療拠点機関等との連携体制の構築など、地域の医療・相談支援体制の整備を推進する。

②依存症民間団体支援

0.4億円 → 0.4億円

依存症者や家族等を対象とした相談支援や普及啓発等に全国規模で取り組む民間団体を支援する。

③全国拠点機関における依存症医療・支援体制の整備

1.1億円 → 1.1億円

依存症対策全国拠点機関（久里浜医療センター）において、アルコール、薬物、ギャンブル等に対応した相談・治療等における指導者の養成や情報発信等を通じて、依存症治療・支援体制の整備を推進する。

④依存症に関する調査研究の実施

1.2億円 → 1.4億円

依存症の実態解明等に関する調査に加え、第2期アルコール健康障害推進基本計画に盛り込まれている発生予防や治療等に係る各種ガイドラインの作成やプログラムの開発等に係る調査研究を実施する。

⑤依存症に関する普及啓発の実施

0.8億円 → 0.8億円

依存症者や家族等が地域の治療や支援につながるよう、依存症に関する正しい知識と理解を広めるための普及啓発を実施する。

⑥アルコール・薬物・ギャンブル等の民間団体支援

地域生活支援事業等の内数 → 地域生活支援事業等の内数

地域で依存症関連問題に取り組む民間団体の支援を行う。

依存症対策地域支援事業

令和4年度予算額 6.0億円（6.0億円）

都道府県・指定都市において、医療機関や精神保健福祉センター、保健所、市町村、民間団体・回復施設、保護観察所等が相互に有効かつ緊密に連携し、専門医療機関及び治療拠点機関の選定や相談拠点（依存症相談員の配置）の設置、普及啓発など、地域のニーズに合わせた総合的な支援を提供する。

【内容】

（１）依存症地域支援体制推進事業

地域における依存症の支援体制を構築するため、医療体制、相談支援体制、地域支援計画に係る事項に関し、関係機関による検討会を開催する。

- ①医療提供体制：専門医療機関の選定、医療機関間の連携 など
- ②相談支援体制：相談拠点の設置、連携、依存症相談員の配置 など
- ③地域支援計画：アルコール、ギャンブル等に関する地域計画 など

（２）連携会議運営事業

依存症患者等に対する包括的な支援のため、関係機関が密接な連携を図り、地域における依存症に関する情報、課題の共有、研修計画の調整等を行う連携会議を開催する。

（３）依存症専門相談支援事業

相談拠点における体制確保により、適切な相談支援を実施する。

（４）依存症支援者研修事業

- ①依存症相談対応職員研修（対象者：保健所等職員）
- ②依存症医療研修（対象者：地域の精神科医療機関、精神科以外の医療従事者）
- ③地域生活支援者研修（対象者：市町村の福祉関係職員、障害福祉サービス事業所の職員等）

依存症対策地域支援事業（つづき）

（５）普及啓発・情報提供事業

依存症はだれもがなりうる「疾病」であること等、正しい知識を周知するための普及啓発を行う。また、依存症相談拠点の周知、各種情報の収集・提供、小冊子やリーフレット等の作成・配布、市民向けフォーラム等の開催などを実施する。

（６）依存症の治療・回復支援事業

精神保健福祉センター等において、SMARPPをはじめとした回復プログラムを実施する。

（７）依存症患者の家族支援事業

精神保健福祉センター等において、家族に対する支援プログラムの実施や家族会の開催、相談支援等を行う。

（８）受診後の患者支援に係るモデル事業

専門医療機関等において、専門職員を配置し、民間支援団体と連携した依存症患者に対する効果的な支援のあり方に関する知見を集積する

（９）地域連携による依存症早期発見、早期対応、継続支援モデル事業【新規】

地域における依存症のスクリーニングやカウンセリング、専門医療機関への紹介を行うとともに、自助グループ、併発している他の病気の治療機関、同時に抱えている問題の支援機関等へのつなぎを行い、地域での連携による依存症患者の早期発見から、早期対応、地域資源への接続、継続的なサポートを一貫して実施する。

（１０）精神科救急・依存症医療等連携事業

医療・相談支援体制を整備し、精神科救急医療施設等との連携を推進

依存症に関する問題に取り組む民間団体支援

全国規模で活動する民間団体

支援

依存症民間団体支援事業

令和4年度予算 0.4億千円 (0.4億円)

- 全国規模で依存症問題に取り組む民間団体が実施する依存症対策を推進
- 国から民間団体への支援。補助率10/10
- 支援例
 - ・必要な人材を養成するための研修
 - ・依存症に関する普及啓発等の活動 等
- 平成30年度は、8団体の事業を採択
令和元年度は、12団体の事業を採択
令和2年度は、11団体の事業を採択
令和3年度は、12団体の事業を採択

地域で活動する民間団体

支援

依存症に関する問題に取り組む民間団体事業

令和4年度予算 地域生活支援事業の内数

- 地域で依存症問題に取り組む民間団体が実施する依存症対策を推進
- 地方自治体から団体への支援（うち国が1/2補助）
- 補助対象例
 - (1) ミーティング活動
依存症者やその家族が悩みを共有することや情報交換ができる交流活動。（会場提供など）
 - (2) 情報提供
依存症を抱える者やその家族の問題解決に資する情報提供。（リーフレット作成経費など）
 - (3) 普及啓発活動
依存症に関する普及啓発活動。（刊行物発行に要する費用援助など）
 - (4) 相談活動
依存症に関する問題の相談を受ける活動。（会場提供や相談専門家への謝金など）

令和3年度（2021年度） 依存症の理解を深めるための普及啓発

- アルコール・薬物・ギャンブルなどの依存症は、適切な治療とその後の支援によって、回復可能な疾患。
- その一方で、依存症に関する正しい知識と理解が得られていない上、依存症への偏見、差別もあり、依存症の方やその家族が適切な治療や支援に結びついていないという課題がある。
- こうした課題の解決に向けての取組として、イベントやSNSをはじめとする各種媒体で情報発信を進める。

□ 依存症の理解を深めるための普及啓発事業

① 依存症理解啓発サポーターの任命

今田耕司氏を依存症理解啓発サポーターに任命し、個人のSNSにおける発信や普及啓発事業における出演等を通じて一般の方への普及啓発を図る。



依存症理解啓発サポーター 今田耕司氏

【参考】これまでの依存症理解啓発サポーター

平成30年度 前園真聖氏（元サッカー選手、タレント）

令和元年度 古坂大魔王氏（お笑い芸人、タレント）

令和2年度 今田耕司氏（お笑い芸人、タレント）

② 依存症の理解を深めるための特別授業の実施

依存症の理解を深めるため、高校生を対象とした特別授業を実施。

令和3年12月8日 和歌山県立箕島高等学校

令和3年12月9日 学校法人新潟青陵学園新潟青陵高等学校

令和4年1月31日 高知県立高知農業高等学校

③ 依存症の理解を深めるための落語・トークイベントの開催

依存症の理解を深めるため、落語・トークイベントを開催し、依存症に関心のない人を含めて多くのひとに依存症の特徴や適切な治療・支援に向けた相談先等を普及啓発する。

令和4年2月26日 オンライン・ハイブリッド開催

出演：桂雀々、おたわ史絵氏（医師）、東ちづる氏（俳優）

④ 依存症の理解を深めるための普及啓発シンポジウム

依存症についての理解を一層深めるため、普及啓発シンポジウムを開催する。

令和3年11月15日 オンライン開催

令和4年3月16日 オンライン開催

⑤ 特設WEBサイト、SNSを活用した情報発信

- ◆ 特設WEBサイト(厚労省依存症対策HPよりアクセス可) を開設し、イベント開催、マンガ、動画等により依存症に関する正しい知識を啓発。

依存症の理解を深めるホームページ (<https://www.izonsho.mhlw.go.jp/>)

Twitter：依存症なび (<https://twitter.com/izonshonavi>)

Instagram：依存症なび (<https://instagram.com/izonshonavi>)

- ◆ コンテンツ配信：依存症に関する正しい理解の促進のためのマンガを特設WEBサイトで配信。



■ 依存症の理解を深めるホームページ

■ 依存症啓発漫画
三森みささんが、依存症をテーマにした啓発内容の漫画を配信。



⑥ アウェアネスシンボル (Butterfly Heart)

アウェアネスシンボルマーク (Butterfly Heart) を依存症に対する治療・回復支援への応援の意思を表明する象徴として広く展開。

※「アウェアネスシンボルマーク」とは、特定の社会運動における支援や賛同を表明したり、社会問題への気づきを促す際に使用するシンボルマークのことです。



アウェアネスシンボル